

南スーダンの平和構築と日本の役割
－国際平和協力と人道・開発支援の現場で考えたこと－

2018年1月9日
前駐南スーダン大使・紀谷昌彦
masahiko.kiya@mofa.go.jp

1. はじめに：今なぜ南スーダンを考えるのか？

自衛隊部隊の国連PKO派遣・撤収，世界最大規模の人道危機が継続

2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか？

(1) 経緯

2011年に独立，2013年12月・2016年7月の2度の危機

(2) 要因

指導者間・部族間の相互不信，治安組織の未整備・小型武器の拡散，
行政諸制度の未整備・支援への依存，伝統的秩序の脆弱化

(3) 課題

南スーダン主導で国際社会の支援が得られる平和の実現
国内の和解，国際社会との協調，経済の安定

(4) 国際社会の取組

I G A D主導のハイレベル再活性化フォーラムの開催

3. 日本の役割：何ができるのか？

(1) 自衛隊

質の高い成果，高い能力と規律で国連PKOに貢献，それを広く発信
住民目線のマルチタレント集団，オールジャパンの国際協力に参画

(2) J I C A

インフラ事業，制度・能力構築，人材育成に対する高い評価，
スポーツを通じた平和構築支援も

(3) 国際機関

人道から開発への移行，人間の安全保障，制度構築・能力構築に重点，
国際機関邦人職員も前線で活躍，I C R Cと日本赤十字も連携

(4) N G O

遠隔ベースの支援へ移行，現地N G Oの能力強化・国際N G O内の連携
供与式では自衛隊とも連携，大使館も現地N G Oを支援

(5) 政治プロセス

国連安保理で議論に積極的に貢献，国民対話支援も実施

4. おわりに：これから何をすべきか？

自立・自助努力を重視する主要国の日本が関与・橋渡しする意義大，「使命」
国際平和協力，人道・開発支援，政治プロセスの各々で独自の付加価値

(以上)